

1 学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることでできる学校
○児童・生徒像	○地域に根差し、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	○常に自己研鑽に努め、指導力や授業力の向上に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動意識の高い教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

教職員は、皆熱心に職務遂行に取り組んでいる。児童は明るく素直で、健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、素早く、組織的に対応し早期の課題解決に努めている。学校に対する地域・保護者の期待は大きくPTA、各町会をはじめ地域も大変協力的である。区学力調査結果は、**通過率全体80.8%、(国語77.3%、算数84.3%)**で、桜花小学校としては**初めて通過率80%以上を達成した**。昨年度と比べ(全体78.1、国語78.38、算数77.6)、特に算数科で6.7%の大幅な向上が見られた。校内研究で算数科の研究を進め、足立スタンダードの徹底を目指してきたほか、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」のに対して、92%以上の保護者が「よくできている」「ややできている」と肯定的な回答となり、これについても7%と大幅な向上が見られた。開かれた学校づくり協議会の協力も得ながら年間を通し実施している毎朝のあいさつ運動を推進し、日常的に縦割り活動を進める中で、すべての児童に思いやりの心をもって優しく接するという気持ちが育ってきた。児童の運動能力および筋力、持久力のさらなる向上を目指し、授業発表会等を通して体育授業や教材、指導内容の工夫に努めた。さらには、持久走週間や縄跳びチャレンジ等、一定期間集中的に運動に取り組む中で、日常的に運動に親しもうとする児童が増えてきている。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	思いやりと自分が大切にされている実感ある学級・学年づくり(学級・学年経営)	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○
4	小中連携	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的基本的な学習内容の定着		令和3年度区学力調査目標値の通過率 80%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	算数科 習熟度別 少人数授業の改善	算数	毎日の 授業 低学年 :5/週 2 学年 以上: 7/週	【指導者体制】 担任+習熟度別担当教諭 【取り組みのねらい】 各学級教室：担任(B・C) と習熟度別少人数教室(C) の半期固定 ○各グループの正答率に 応じた目標値設定。 ○指導者が担当グループ 児童の理解に責任を持つ。 ○単元末テストの評価テ ストを行い 結果を事後 指導(放課後指導)に反映す る。	◇各単元末評 価テストのグ ループ別集団 平均点の3期 に分け前2期 (てんまる学年 集計単元別学 習状況一覧表) による点検： 校長 確認日 ・ 7/20 ・ 12/20 ・	◇単元評価テス ト全学年の通年 平均点 80 点以 上 (R5.2 月テスト 時点での学年通 年平均は80.6の ため 2.4 点以上 の up)			

2 継続	放課後学習による学習内容の定着	算数	4回/週 月・火・水・金の放課後 3:00-3:30の30分間	<p>【指導体制】学年＋副担任 【ねらい・目的】</p> <p>○低学年 ・全児童対象・既習内容のプリント・ドリル1枚程度を行い完全正答を担任がチェックした児童から順次下校。残った児童を指導。</p> <p>○3～6学年 A:各学年指定の特別教室に移動しAIドリルの指定範囲を進める。学年担当専科教諭等が終了を確認した児童から順次下校 B:各学年2組教室に移動2組担任が上記と同様に進める。必要に応じて指導 C:各学年1組教室に移動学年主任よりAIドリル指定範囲の内容について指導を受けた後範囲を進める</p>	各単元末評価テストの学年全体の正答率(得点)の推移	<p>◆各学年算数科単元末評価テスト平均正答率8割の達成児童が達成</p> <p>◆2月実施の昨年度学力テスト校内調査で各学年習熟度グループ別校内目標値の達成(当初申告時に校長提案・教員調整により決定)</p>			
3 新規	1時間/週の特設時間の追加(算数科)	算数	毎週の 低: 火 5校時 中・高: 木 7校時	<p>【指導体制】1～6学年 【ねらい・目的】</p> <p>算数科の「わからない・できない」を1人残らずくいあげる 算数授業の実質2割増 ※時間割としては左記時間に算数科は設定しない</p>	各単元末評価テストの学年全体の正答率(得点)の推移	<p>◆各学年算数科単元末評価テストの正答率推移</p> <p>◆2月実施の昨年度学力テスト校内調査</p>			

4 継続	家庭学習定着への取組	各教科 30分+学年×10分 間以上	年2回 7月、 12月	【取り組みのねらい】 家庭学習習慣の9割定着 家庭学習提出率向上のための保護者の意識醸成 保護者チェックカードの配布	家庭学習の提出率各学級達成度の確認	全学級家庭学習の提出率9割以上			
5 継続	授業規律習慣化への取組	全学級 全員	年2回 7月、 12月	【取り組みのねらい・目的】 望ましい授業規律を習慣化するために、授業規律カードにてチェックを行う。	管理職の学級観察	2回の 全学級の規律定着(管理職による点検)			

重点的な取組事項－2									
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○思いやりある児童の育成 ○自分が大切にされていると実感できる環境設定		○生活指導部・特活部における全校的な取り組みの計画と実施 ○各学年での取り組み			

B 目標実現に向けた取組み					
----------------------	--	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「ほかほか言葉」でいっぱい为学校	学校評価児童アンケートの項目「楽しく仲良く学校生活を送っている」及び「自己肯定感」に関わることの達成 90 パーセント以上	○各学級教室での「友達のいいところ」「友達にありがとう」の掲示 ○校長等による朝会等での「友達にありがとう」の紹介 ○行事参観・学校公開後に保護者に依頼するアンケート「桜花っ子の良いところ」のホームページ・学校だより等での紹介			

桜花小 年間読書奨励賞	区学力意識調査 「1月に2冊以上本を読む」80%以上へのUP	校長・各学級担任による通年奨励 足立区立図書館作成の「あだち読書通帳」(50冊記録帳)を終了した児童称賛機会の設定と紹介 1年(3冊)・2・3年(2冊)・4年以上(1冊)ごと	月に2冊以上(年間12冊以上)は全校生徒の84.1%	教職員の読書量向上への取り組み意識の高まりが児童の読了数アップへ顕著に反映した	◎
----------------	-----------------------------------	---	----------------------------	---	---

重点的な取組事項－3					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成		○都運動能力調査で一昨年の学年平均スコアを全学年向上させる。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
年間を通じた体力向上の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・運動朝会、体育授業等様々な運動を計画的に行う機会の設定。 ・自己の記録履歴や学習カードを活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。 ・体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭や地域とも連携した取組の推進。運動月間ごとに学校記録の更新の機会を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳指導はコロナ対応のため1学年ごとの実施となり回数削減となった。各体育授業を含め、多くの活動で個人記録を履歴として整理する準備が整った。 		

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）